

文学部（通信教育課程）の教育目標・方針

通学課程において17の専攻から成る文学部は、通信教育課程において3つの類に区分されます。

第1類は哲学、第2類は史学、第3類は文学をそれぞれの中核とします。

第1類

哲学、倫理学、美学美術史学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学の各専攻領域を中心として、広義の哲学や人間科学に含まれる専門研究を行います。人間の存在、認識、価値を省察する哲学や倫理学から、実験を基盤として自然科学の性格をも帯びる心理学、個人の美的感受性の分析から集団のコミュニケーション研究まで、多様な分野があります。

第2類

日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学の各専攻領域を中心として、歴史に関する専門研究を行います。それぞれの専門領域の枠をこえて、キリシタン史のように東西にまたがる研究や、また西洋と東洋の接点であるオリエントの歴史、ポリネシアや東南アジアにも及ぶ民族学と考古学など、時間軸から世界を捉えようとする研究分野もここに含まれます。

第3類

国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学の各専攻領域を中心として、文学と言語研究を主要な対象とした研究を行います。日本の諸大学の文学部の中でも特筆に価するレパトリー（ライブラリー）の広さと伝統を持ち、第1、2類の諸専攻との連携の上に立って、専門的かつ総合的な研究を行います。

文学部（通信教育課程）のディプロマ・ポリシー

文学部(通信教育課程)は、本塾建学の精神に則り、哲学、美学、図書館・情報学、人間関係学、史学、文学にかかわる理論と応用を研究教授し、文化の創造と社会の発展に資する幅広い教養と深い学識および知的・倫理的・実践的能力を有した人物を育成します。すなわち「文(ことば)」にかかわる広大な領域を対象として、創立者福澤諭吉の「実学の精神」に基づき、実証的に真理を解明し問題を解決してゆく科学的な姿勢と知識および能力を培うことをめざします。

文学部(通信教育課程)では、学生が所属する「類」(第1類:哲学を主とするもの、第2類:史学を主とするもの、第3類:文学を主とするもの)、およびその中で扱われる専攻領域によって求められることが多少異なります。学生は、執筆を希望する卒業論文のテーマに関係する専攻領域で求められることを踏まえ、指導教員の指導のもとで卒業論文の執筆を進めます。所定の要件を満たしたと認められる学生に対して、学士の学位が授与されます。

各類で授与される学位、およびその中で扱われる専攻領域は、文学部(通学課程)の17専攻と対応しており、次の通りです。

[第1類]

学士(哲学)：哲学専攻領域、倫理学専攻領域

学士(美学)：美学美術史学専攻領域

学士(図書館・情報学)：図書館・情報学専攻領域

学士(人間関係学)：社会学専攻領域、心理学専攻領域、教育学専攻領域、人間科学専攻領域

[第2類]

学士(史学)：日本史学専攻領域、東洋史学専攻領域、西洋史学専攻領域、民族学考古学専攻領域

[第3類]

学士(文学)：国文学専攻領域、中国文学専攻領域、英米文学専攻領域、独文学専攻領域、仏文学専攻領域

授与される学位ごとの卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) および教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー) は別に定めるとおりです。

授与される学位ごとの卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)／教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

第1類 学士(哲学)、学士(美学)、学士(図書館・情報学)、学士(人間関係学)

第2類 学士(史学)

第3類 学士(文学)

【第1類】

文学部(通信教育課程)第1類では哲学を主とし、幅広い専攻領域を扱っていますが、学生は、自らが取得を希望する学位の専攻分野(学士(〇〇))に基づいて卒業論文のテーマを検討し、そのテーマに関係する専攻領域で求められることを踏まえ学修を進めるとともに、指導教員の指導のもとでテーマを掘り下げて卒業論文の執筆を進めていきます。

第1類で授与される学位の専攻分野と関係する専攻領域は次の通りです。

学士(哲学)：哲学専攻領域、倫理学専攻領域

学士(美学)：美学美術史学専攻領域

学士(図書館・情報学)：図書館・情報学専攻領域

学士(人間関係学)：社会学専攻領域、心理学専攻領域、教育学専攻領域、人間科学専攻領域

所定の必要単位を修得したうえで、それぞれの学位において、専攻領域で求められること、卒業論文執筆の重点項目などを含んだ方針は次の通りです。

学士（哲学）

〔哲学専攻領域〕

1.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、西洋哲学に対する理解を深めながら批判的思考力を養い、論理的表現力を磨くとともに、現代社会の諸問題に対して普遍のかつ自律的な視点から考察できる人材の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（哲学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：古今の西洋哲学の文献を正確に理解できること。またそのために必要な語学力と批判的思考力を身につけていること。

資質・能力目標（２）：口頭発表・文章表現などにおいて説得力ある議論・論証ができるだけの論理的表現力を身につけていること。

資質・能力目標（３）：人間とそれを取り巻く世界、人間が形成してきた知識(諸科学)、信念体系、価値体系について、原理的かつ総合的な反省的考察をおこなうことができること。

資質・能力目標（４）：変転めまぐるしい現代社会の只中にあっても、問題に対してつねに原理的かつ批判的な考察を加えようとする合理的で自律的な思考主体・表現主体であると同時に、いかなる問題に直面しても、時流に流されることなく、つねに普遍的な観点に立とうとする行為主体であること。

資質・能力目標（５）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。あるいは、卒業試験において、同等の内容を提示する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2.教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）哲学専攻領域（学士：哲学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

(1) 基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。

(2) 自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、テキスト科目、スクーリング科目などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

(3) 知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)：古今の西洋哲学の文献を正確に理解できること。またそのために必要な語学力と批判的思考力を身につけていること。

→総合教育科目において、通信教育課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能、着実な言語運用能力を身につけ、専門教育科目においてさらなる応用力を養う。

資質・能力目標(2)：口頭発表・文章表現などにおいて説得力ある議論・論証ができるだけの論理的表現力を身につけていること。

→総合教育科目、必修外国語科目での学修成果をふまえ、専門教育科目において、哲学にかかわる基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標(3)：人間とそれを取り巻く世界、人間が形成してきた知識(諸科学)、信念体系、価値体系について、原理的かつ総合的な反省的考察をおこなうことができること。

→様々な科目を組み合わせることで履修することにより、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。また、他学部の専門教育科目等の履修も可能とし、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標(4)：変転めまぐるしい現代社会の只中であっても、問題に対してつねに原理的かつ批判的な考察を加えようとする合理的で自律的な思考主体・表現主体であると同時に、いかなる問題に直面しても、時流に流されることなく、つねに普遍的な観点に立とうとする行為主体であること。

→主として卒業試験において、各自の研究テーマを探究し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

資質・能力目標(5)：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域に

において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。あるいは、卒業試験において、同等の内容を提示する力。

→学生は自らの関心に従って研究テーマを選択し、担当教員による指導を受けることができる。

[倫理学専攻領域]

1.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

倫理学専攻領域は、慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、古今東西の思想家たちとの対話を通じて人間の生き方を探究し、思想家の精神的創作活動の場としての文化の本質を問い、そして、近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直す能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（哲学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：人間の生き方を探究する視点と方法を確認するために必要とされる、倫理学の主要理論と理論史に関する基本的な知識を習得している。

資質・能力目標（２）：多様な倫理思想・宗教思想についての理解を深め、人間の根底に迫るとともに、多文化社会における人間の生のあり方を反省する力。

資質・能力目標（３）：科学技術の発展や環境破壊、戦争、グローバル化など、現代社会の身近な問題を手がかりにして、近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直す力。

資質・能力目標（４）：倫理学上重要な理論とそれに関する先端的研究について、一定の知識を有している。

資質・能力目標（５）：卒業論文において、人間の生き方や社会のあり方について考察すべき問いを自らの関心に従って選択し、先行研究をふまえながら、それに対する解答を首尾一貫して提示する力。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は、次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である
2. 先行研究を踏まえている
3. 方法が目的に適っている
4. 内容が論理的で一貫している
5. 形式が学術論文として適切である

2.教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）倫理学専攻領域（学士：哲学）は「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- (1) 基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、多様な科目群を設置する。
- (2) 自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、テキスト科目、スクーリング科目などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3) 知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)：人間の生き方を探究する視点と方法を確立するために必要とされる、倫理学の主要理論と理論史に関する基本的な知識を習得している。

→倫理学の主要理論と理論史に関する基本的な知識を習得するための科目として、「倫理学」を設置する。

資質・能力目標(2)：多様な倫理思想・宗教思想についての理解を深め、人間の根底に迫るとともに、多文化社会における人間の生のあり方を反省する力。

→多様な倫理思想・宗教思想の理解を深めるための科目として、「倫理学(専門)」などを設置する。

資質・能力目標(3)：科学技術の発展や環境破壊、戦争、グローバル化など、現代社会の身近な問題を手がかりにして、近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直す力。

→現代社会の身近な問題を手がかりにして近現代の自然観や生命観、人間観や社会観を問い直すための科目として、「現代倫理学の諸問題」を設置する。

資質・能力目標(4)：倫理学上重要な理論とそれに関する先端的研究について、一定の知識を有している。

→倫理学上重要な諸理論を詳細にわたって理解し、その先端的研究に触れるための科目として、「倫理学特殊」を設置する。

資質・能力目標(5)：卒業論文において、人間の生き方や社会のあり方について考察すべき問いを自らの関心に従って選択し、先行研究をふまえながら、それに対する解答を首尾一貫して提示する力。

→卒業論文を必須として課す。学生は自らの関心に従って研究テーマを選択し、担当教員による指導を受けることができる。

学士(美学)

〔美学美術史学専攻領域〕

1.卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、古今東西の美と芸術に関する様々な知識と研究方法を修得しながら、優れたコミュニケーション能力を有し、人間を尊重し、自らと他者を理解することによって多様な価値を認める深い人間性を養う。また、さまざまな分野でリーダーシップを発揮し、社会の各方面に貢献できる人材となることを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（美学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：美学、芸術学、美術史学、音楽学、アート・マネジメント等、美と芸術に関する各分野の学問に関して、本質的で幅広い知識と教養を身につける。

資質・能力目標（２）：芸術の諸分野についての基礎的教養を身につけ、あわせてイメージやパフォーマンス等の非言語的対象を把握し、それを適切に言語化する基本的リテラシーを身につける。

資質・能力目標（３）：研究テーマに応じて適切な情報の収集と分析を行い、科学的・論理的に思考し、批判的に考えることができる力。

資質・能力目標（４）：適確な文章をもって、学問的な評価に耐えうる卒業論文を執筆する力。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

- １．テーマ・問題意識が明確である。
- ２．先行研究を踏まえている。
- ３．方法が目的に適っている。
- ４．内容が論理的で一貫している。
- ５．形式が学術論文として適切である。

2.教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）美学美術史学専攻領域（学士：美学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせ教育を実施する。

（１）美学・芸術学、美術史学と音楽学などの芸術諸分野にわたる多様な科目群を設置することで、美と芸術に関する基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指す。

（２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目において、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

（３）知的探求と実践力の育成のために、所属する類の科目を必ず履修するとともに、他の類の専門教育科目を選択科目として履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：美学、芸術学、美術史学、音楽学、アート・マネジメント等、美と芸術に関する各分野の学問に関して、本質的で幅広い知識と教養を身につける。

→美学や芸術学、芸術の諸分野に関する概説と各論等、多様な授業を設置する。

資質・能力目標（２）：芸術の諸分野についての基礎的教養を身につけ、あわせてイメージやパフォーマンス等の非言語的対象を把握し、それを適切に言語化する基本的リテラシーを身につける。

→芸術の諸分野に関する概論、概説、各論等に加え、卒業論文指導において、基礎的な専門用語や概念を理解し、作品記述の方法を身につけることで、非言語的対象を言語化するための基本的リテラシーを養う。

資質・能力目標（３）：研究テーマに応じて適切な情報の収集と分析を行い、科学的・論理的に思考し、批判的に考えることができる力。

→卒業論文の取り組みにおいて、基本文献や研究方法、資料の扱い方などを学び、論文執筆の実践を通じて、情報収集の方法と分析、科学的な思考能力を養う。

資質・能力目標（４）：適確な文章をもって、学問的な評価に耐えうる卒業論文を執筆する力。

→卒業論文の担当教員の下で研究・発表を行い、卒業論文を執筆する。

学士（図書館・情報学）

〔図書館・情報学専攻領域〕

1.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、個人や機関、団体などにより生産され記録された経験や情報、知識について、その流通・組織化・提供・利用・保存・制度など諸側面の基礎的な知識の学修を通じて、情報という観点から問題を発見し自ら解決できる総合的な能力を習得することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（図書館・情報学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：特定テーマから広範な分野にいたるまで文献と情報を検索、収集、分析する能力。

資質・能力目標（２）：コンピュータをはじめ情報機器・情報メディアを活用する情報処理能力。

資質・能力目標（３）：情報専門職としての基盤形成。

資質・能力目標（４）：日本語による専門文献の読解能力。

資質・能力目標（５）：論理的な文章表現能力。

資質・能力目標（６）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は以下の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2.教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部図書館・情報学専攻領域（学士：図書館・情報学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせる教育を実施する。

（１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。また、図書館・情報学専攻領域以外が設置する専門教育科目の履修を通して、幅広い視野と知識の習得を図る。

（２）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：特定テーマから広範な分野にいたるまで文献と情報を検索、収集、分析する能力。

→総合教育科目、必修外国語科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能を身につけたうえで、専門教育科目において図書館・情報学にかかわる文献と情報を検索、収集、分析する専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標（２）：コンピュータをはじめ情報機器・情報メディアを活用する情報処理能力。

→専門教育科目において、情報処理、情報管理などの諸活動および情報サービスに必要な不可欠な情報検索と情報組織化の基本的な考え方と技術について学修する。また、情報メディアの社会的制度、技術特性、人間の認知と行動を踏まえながら、情報メディアが社会で果たす役割について学修する。

資質・能力目標（３）：情報専門職としての基盤形成。

→専門教育科目において、図書館や情報提供機関のサービスと運営を中心に、図書館司書等に必要とされる、社会において知識と情報を活用するための仕組みについて学修する。

資質・能力目標（４）：日本語による専門文献の読解能力。

→専攻設置の専門教育科目において、図書館・情報学にかかわる日本語による専門的な文献を読解する能力を育成する。

資質・能力目標（５）：論理的な文章表現能力。

→総合教育科目、必修外国語科目での学習成果を踏まえ、卒業論文指導において、基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標（６）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

→担当教員の指導のもと、課題設定から課題解決、さらに成果のまとめまでを含めた卒業研究を課す。卒業研究は、複数教員による審査および審査項目の標準化などの指導体制のもとで実施することにより、総合的な能力の育成を図る。

学士（人間関係学）

〔社会学専攻領域〕

1.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、社会学および社会心理学、文化人類学の知識と方法ならびに問題意識を融合的に活用し、自立した市民および職業人として個人と社会のために協働できる人材の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：社会学、社会心理学、文化人類学における主要な学説についての基礎的な理解を持ち、日本語や外国語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

資質・能力目標（２）：社会学、社会心理学、文化人類学のそれぞれの視点から、さらにはそれらを融合した視点から、人間、社会、文化にかかわる諸事象を捉え、分析し、説明する学問的成果についての理解を持ち、それを社会問題の解決に応用する力。

資質・能力目標（３）：質的・量的社会調査の方法を理解し、複数の方法を用いて資料の収集・整理・分析・解釈を行い、その内容について効果的なプレゼンテーションを行う力。

資質・能力目標（４）：以上のような知識に加え、人間、社会、文化にかかわる諸事象の様々な側面を探究し、その探究の過程と結果について適切に表現する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2.教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）社会学専攻領域（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するための教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- （1）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、社会学、社会心理学、文化人類学の概論科目に加え、より専門的な各論科目や多様な特殊科目を設置する。
- （2）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、学説および理論を学べる科目に加え、主要な社会調査法を身につける科目を置く。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（1）：社会学、社会心理学、文化人類学における主要な学説についての基礎的な理解を持ち、日本語や外国語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

→総合教育科目、必修外国語科目で身につけた学習の基礎的技能、言語運用能力をふまえ、社会学、社会心理学、文化人類学における主要な学説についての基礎的な知識を着実に身につけるための科目を置き、より専門的な学習を行うための基盤を形成する。

資質・能力目標（2）：社会学、社会心理学、文化人類学のそれぞれの視点から、さらにはそれらを融合した視点から、人間、社会、文化にかかわる諸事象を捉え、分析し、説明する学問的成果についての理解を持ち、それを社会問題の解決に応用する力。

→上記の学修成果をふまえ、人間、社会、文化の諸事象に関する社会学、社会心理学、文化人類学からの学問的成果を修得するための幅広い科目を置き、3つの学問に対する個別的学习のみならず、2つ以

上の学問分野の融合的な理解を導き、社会問題への多角的な応用力を養う。

資質・能力目標（３）：質的・量的社会調査の方法を理解し、複数の方法を用いて資料の収集・整理・分析・解釈を行い、その内容について効果的なプレゼンテーションを行う力。

→専門教育科目において、人間、社会、文化の諸事象に関する様々な資料を収集・整理・分析・解釈するための妥当で信頼できる方法および技法を学べる科目を置き、自ら立てた問いを実証的に探求する機会を設ける。

資質・能力目標（４）：以上のような知識に加え、人間、社会、文化にかかわる諸事象の様々な側面を探求し、その探求の過程と結果について適切に表現する力。

→より限定的な領域における具体的な問題をめぐり、対話的、実習的、実践的に学習するよう指導し、卒業論文の作成を支援していく。

[心理学専攻領域]

1.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、心や行動を科学的に捉え、社会における人々の行動や反応を客観的に把握し、その背後にある原因や機構を深く理解することのできる人材の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：科学的視点による心や行動の捉え方、さまざまな現象の数値化、データ解析方法などの基礎を身につける。

資質・能力目標（２）：実験心理学に関する諸分野における専門的な基礎知識を身に付けるとともに、それらの実践・臨床応用的な視点を学ぶために、実験心理学以外の心理学関連科目の履修を通して、心をより俯瞰的な視野から捉えるスキルを修得する。

資質・能力目標（３）：グローバルな人材育成を目指し、国際的なジャーナルに掲載される論文を読み込む能力や、そこで必要とされる高い思考力を身につける。

資質・能力目標（４）：卒業論文の指導におけるディスカッションを通して高いレベルのプレゼンテーション能力を身につける。

資質・能力目標（５）：卒業論文の作成を通して、社会において役立つ、計画を立案し管理、実行する方法を学び、文章表現力や構成力を修得する。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。

3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2.教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）心理学専攻領域（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、アクティブラーニングやPBLなどの教育法を組み合わせ教育を実施する。

（1）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。

（2）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目、実験科目などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

（3）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（1）：科学的視点による心や行動の捉え方、さまざまな現象の数値化、データ解析方法などの基礎を身につける。

→データ解析能力や実験技法の基礎を学ぶ専門教育科目を組み合わせ履修することにより、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。

資質・能力目標（2）：実験心理学に関する諸分野における専門的な基礎知識を身に付けるとともに、それらの実践・臨床応用的な視点を学ぶために、実験心理学以外の心理学関連科目の履修を通して、心をより俯瞰的な視野から捉えるスキルを修得する。

→心理学に関する専門教育科目を組み合わせ履修することにより、心理学の基礎および応用的な視点を育む。また、心理学専攻領域外の専門教育科目等の履修も可能とし、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標（3）：グローバルな人材育成を目指し、国際的なジャーナルに掲載される論文を読み込む能力や、そこで必要とされる高い思考力を身につける。

→総合教育科目、必修外国語科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基

礎的技能、着実な言語運用能力を身につけ、専門教育科目においてさらなる応用力を養う。

資質・能力目標（４）：研究会や発表会におけるディスカッションを通して高いレベルのプレゼンテーション能力を身につける。

→主として卒業論文の指導において、各自の研究テーマを探求し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究課程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

資質・能力目標（５）：卒業論文の作成を通して、社会において役立つ、計画を立案し管理、実行する方法を学び、文章表現力や構成力を修得する。

→卒業論文の指導や担当指導教員による指導を通じて、各自の卒業研究を立案・管理・実行する方法を学び、卒業論文にかかるディスカッションやフィードバックを通じて文章表現力や構成力を養う。

[教育学専攻領域]

1.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、「教育」という視座から人間と社会の諸問題を学問的に探究することのできる人物の育成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：教育学の基礎に関する概括的知識とともに、教育学の主軸分野である教育哲学、教育史学、教育心理学に関する基本的知識を獲得している。

資質・能力目標（２）：教育に関する諸問題を学問的に探究するための方法論の基礎を身につけている。

資質・能力目標（３）：「教育」という視座から考察すべき学問的問いを自らの関心に即して設定し、人間と社会の様々な問題の探究や解明を試みている。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力を身につけている。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

- １． テーマ・問題意識が明確であり、教育学上重要な問題について批判的に検討している。
- ２． 教育学上重要な主要理論、研究遂行に不可欠な先行研究を踏まえている。
- ３． 卒業論文の研究方法が、教育に関する諸問題を学問的に探究し、自身の設定した目的を達成するために適切かつ妥当である。
- ４． 卒業論文の内容が論理的で一貫している。
- ５． 論文の形式が学術論文として適切である。

2.教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

教育学専攻領域（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- （１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得をめざす科目を設置する。
- （２）教育学の重要な課題を自ら見出し、その解決を目指すための専門的な知識や技能を身につけるための科目を設置する。
- （３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、先端的研究、理論、方法に触れるための科目を設置する。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：教育学の基礎に関する概括的知識とともに、教育学の主軸分野である教育哲学、教育史学、教育心理学に関する基本的知識を獲得している。

→教育学の概説科目として「教育学」、教育学の主要な学問領域を学修するための科目として「教育思想史」（教育哲学分野）、「教育史」（教育史分野）、「教育心理学」（教育心理学分野）を設置し、教育に関する基本的・概括的知識を習得する。

資質・能力目標（２）：教育に関する諸問題を学問的に探究するための方法論の基礎を身につけている。

→「心理・教育統計学」（分析方法の修得）を設置し、教育学研究に関する専門的な方法論を習得する。

資質・能力目標（３）：「教育」という視座から考察すべき学問的問いを自らの関心に即して設定し、人間と社会の様々な問題の探究や解明を試みている。

→専門教育科目として、教育学の主軸分野に関わる「教育学概論」、「教育学特殊」、「教育心理学概論」を設置し、教育学上重要な諸理論についてより専門的に理解し、人間と社会にかかわる諸問題の探究や解明を試みる機会を設ける。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力を身につけている。

→卒業論文指導により、各自の研究テーマを探究し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

〔人間科学専攻領域〕

1.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の知識および方法論を修得しながら、人間についての総合的・多元的な理解を行い、現代社会における人間・社会・文化に関するさまざまな問題を分析・解決できる人材を育成することを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（人間関係学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法についての基礎知識を修得していること。

資質・能力目標（２）：人間行動についての定量的・行動科学的な分析と、定性的・質的な分析の両方を行いうる能力、それらの能力を用いて自分で具体的な問題を分析できる能力を修得していること。

資質・能力目標（３）：分析結果をわかりやすく他者に説明・提示し議論できるプレゼンテーション能力と、それらを文章化して表現できる論文作成能力を修得していること。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を修得していること。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文あるいは卒業試験は、次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2.教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）人間科学専攻領域（学士：人間関係学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目ならびに専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）人間を多角的にとらえるための認識論と方法論の基礎を学ぶために、総合教育科目に「社会学」「社会心理学」「心理学」「統計学」、専門教育科目に「文化人類学」を置く。

（２）心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法の基礎を学ぶために、専門教育科目に「社会学（専門）」、「社会心理学（専門）」、「文化人類学」を置く。

（３）人間科学に含まれる個別のテーマについて専門的な知識を修得すると同時に、自らの関心を深化

させるための専門教育科目群として「心理学特殊」、「社会学特殊」、「社会心理学特殊」を置く。

(4) 学修成果を総動員し、「卒業論文」を通じて、学生が自らの関心に基づいて研究論文の作成を行う。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1):心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法についての基礎知識を修得していること。

→総合教育科目「社会学」「社会心理学」「心理学」、専門教育科目「文化人類学」を通じて各分野の理論と方法について基礎知識を修得する。

資質・能力目標(2):人間行動についての定量的・行動科学的な分析と、定性的・質的な分析の両方を行いうる能力、それらの能力を用いて自分で具体的な問題を分析できる能力を修得していること。

→専門教育科目群(「社会学(専門)」「社会学特殊」「社会心理学(専門)」「社会心理学特殊」「文化人類学」)を通じて、より専門的な知識と分析方法を学び、「卒業論文」における研究論文の作成を通じて、具体的な問題の分析能力を修得する。

資質・能力目標(3):分析結果をわかりやすく他者に説明・提示し議論できるプレゼンテーション能力と、それらを文章化して表現できる論文作成能力を修得していること。

→「卒業論文」を通じて分析結果を理解しプレゼンテーションする能力を身に付け、発展させる。さらに研究論文執筆によって、分析結果を文章化して表現する論文作成能力を修得する。

資質・能力目標(4):学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を修得していること。あるいは、卒業試験において、同等の内容を提示する能力を修得していること。

→「卒業論文」を通じた研究論文の執筆によって修得する。

【第2類】

文学部(通信教育課程)第2類では史学を主とした専攻領域を扱っており、所定の条件を満たした際には、「学士(史学)」の学位が授与されます。学生は、自らが希望する卒業論文のテーマを検討し、そのテーマに関係する専攻領域で求められることを踏まえ学修を進めるとともに、指導教員の指導のもとでテーマを掘り下げて卒業論文の執筆を進めていきます。

第2類で授与される学位の専攻分野と関係する専攻領域は次の通りです。

学士(史学):日本史学専攻領域、東洋史学専攻領域、西洋史学専攻領域、民族学考古学専攻領域

所定の必要単位を修得したうえで、それぞれの専攻領域で求められること、卒業論文執筆の重点項目などを含んだ方針は次の通りです。

学士（史学）

〔日本史学専攻領域〕

1.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、歴史学を中心として広く様々な分野に即して学問の方法を学びつつ、特に日本史学の分野において、引き出した歴史情報を分析して新たな史実を実証的に掘り起こし、その成果を論理的に構成して発表する能力を培うことを目標とする。

そのため日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする日本語の卒業論文を執筆し、さらに卒業論文のテーマに関連する領域については包括的な専門知識を有し、その領域の研究に貢献をすることができる能力を培うことを目標とする。

加えて教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（1）：通時代的な歴史像の把握の下に研究領域全般に関する知識を修得し、古文書などの史料から歴史情報を引き出すための史料批判を行い、史料を読解する力。

資質・能力目標（2）：学修の成果として、日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする卒業論文を執筆し、その領域の研究に貢献をすることができる力。

資質・能力目標（3）：生のデータの信頼性を確認した上で、それらを分析して論理的妥当性が認められる推論を導き出し、万人の納得を得られるような形でまとめ発表する力。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文（卒業試験）は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 史料の取り扱いが適切であり、方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2.教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）日本史学専攻領域（学士：史学）では、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するにあたり、日本史の全体像を捉え、より深く理解す

るために「日本史概説」、「日本史特殊」、「古文書学」によって専門的領域を学ぶとともに、「史学概論」、「東洋史概説」、「西洋史概説」、「考古学」、「民族学」などから構成される日本史以外の学問領域についても学ぶことができるように、教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）日本史の全体像を捉えるための概説的な科目や、個別の時代やテーマに関する理解を深めるための科目を、スクーリングによる講義科目や、テキストに基づき学生が主体的に学ぶ科目として設置する。

（２）史料にアプローチし、学生が主体的に課題を見出し、その解決を目指すために、幅広く各時代の史料に基づく研究成果を学ぶ科目を、スクーリング科目やテキスト科目として設置し、それを通して学生が主体的・能動的に研究する授業を拡充する。

（３）歴史学の学問体系について学ぶために、「史学概論」や、日本史以外の歴史学の学問的方法を体験するための概説など、広く様々な分野の学問体系に触れるための科目を履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：通時代的な歴史像の把握の下に研究領域全般に関する知識を修得し、古文書などの史料から歴史情報を引き出すための史料批判を行い、史料を読解する力。

→日本史の全体像を捉えるための「日本史概説」や、個別の時代やテーマに関する理解を深めるための「日本史特殊」を開講する。また、幅広く各時代の史料に関する基礎知識を講義する「古文書学」や、それぞれの時代の研究成果を学び、研究への取り組みかたを学ぶ機会を、スクーリング科目・テキスト科目として設ける。

資質・能力目標（２）：学修の成果として、日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする卒業論文を執筆し、その領域の研究に貢献をすることができる力。

→論文執筆の能力を養うために、指導教員による指導に基づき、自らが主体的に研究した内容を報告し、それに基づく討論を経験することで、その領域の研究に貢献をすることができる力を涵養することを目指す。

資質・能力目標（３）：生のデータの信頼性を確認した上で、それらを分析して論理的妥当性が認められる推論を導き出し、万人の納得を得られるような形でまとめ発表する力。

→幅広く各時代の史料に関する基礎知識を講義する「古文書学」や、自らが主体的に取り組む研究について指導教員よりの指導を受け、データに基づき論理的な推論を発表する能力を育成する。

〔東洋史学専攻領域〕

1.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状に対する内在的かつ客観的な視座、着実な外国語の運用能力、歴史学を中心とする人文社会科学の分野横断的な知見などを備え、それらをもとに多文化間の相互理解の促進に貢献できる人物の養成を目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：アジア・中東諸地域の立場や価値観を尊重しながら、その歴史や文化、現状に向き合う視座を身につけている。

資質・能力目標（２）：歴史学に加えて、隣接する人文社会科学の知見や手法もふまえて、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状を実証的かつ学際的な見地から理解する能力を身につけている。

資質・能力目標（３）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を身につけている。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

- 1.テーマ・問題意識が明確である。
- 2.先行研究を踏まえている。
- 3.方法が目的に適っている。
- 4.内容が論理的で一貫している。
- 5.形式が学術論文として適切である。

2.教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部第２類東洋史学専攻領域（学士：史学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせ教育を実施する。

（１）アジア・中東諸地域に関する基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、総合教育科目、専門教育科目において、歴史学を主として学際的な内容を含む多様な科目群を設置する。

（２）アジア・中東諸地域の歴史と現状に関して自ら課題を発見し、その解決を目指す能力を身につけるため、主に面接授業（スクーリング）において、事前学習型授業のような学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

(3) アジア・中東諸地域に関する知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門教育科目において、専門的な知識や技能を習得する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)：アジア・中東諸地域の立場や価値観を尊重しながら、その歴史や文化、現状に向き合う視座を身につけている。

→主に専門教育科目において、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状に関する基礎的な知識および専門的な学識を修得し、時代により異なるアジア・中東諸地域の立場や価値観を尊重する力を養う。

資質・能力目標(2)：歴史学に加えて、隣接する人文社会科学の知見や手法もふまえて、アジア・中東諸地域の歴史や文化、現状を実証的かつ学際的な見地から理解する能力を身につけている。

→東洋史学専攻領域以外の第2類の専門教育科目の履修を求めることに加え、第2類以外の専門教育科目の履修を可能とすることにより、歴史学全般および歴史学以外の人文社会科学に関する知見や手法を修得する機会を設ける。

資質・能力目標(3)：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する能力を身につけている。

→専門教育科目での学修成果をふまえ、学生は自らが設定した研究テーマを主体的に追究するとともに、指導教員による卒業論文指導を通じて当該研究テーマに関する客観的な視点を獲得しながら、新たな展望の提示に挑む力を養う。

〔西洋史学専攻領域〕

1.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、西洋世界およびそこから強く影響を受けた地域の過去を学ぶことを通して、現代の「国際社会」の多くの側面を構成する価値観を理解するために十分な知識を獲得し、ひいては歴史学を通して現代社会の深層を見つめる知見と能力を得ることを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)：西洋世界およびそこから強く影響を受けた地域の歴史についての包括的な知識を持ち、現代の「国際社会」を構成する多様な価値観を理解する力。

資質・能力目標(2)：西洋史学の学術的な専門知識と、史料批判・読解などの歴史学の方法論を身に

つけたうえで、論理的な思考を行い、専門分野および社会における課題を導く力。

資質・能力目標（３）：自ら情報を収集する力、それを学問的に分析するために必要な外国語力と方法論を鍛え、自ら設定した課題に取り組み、効果的なプレゼンテーションを行う力。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた学術的な展望を提示する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）西洋史学専攻領域（学士：史学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、外国語科目、歴史学の方法論を学ぶ科目、時代・地域を広くカバーする西洋史の概説的・専門的科目群を設置する。

（２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、学生が自らの学習を進め、次第に高度な専門的学識や技能を習得することができるような専門教育科目群を設置する。

（３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：西洋世界およびそこから強く影響を受けた地域の歴史についての包括的な知識を持ち、現代の「国際社会」を構成する多様な価値観を理解する力。

→西洋世界の過去についての概説的な知識を得るために、総合教育科目ならびに「西洋史概説」の履修

を通して、その中にある多様性や多重性への理解を深める。また、歴史学が人間の生の全ての面を対象とする学問であることを鑑みて、専攻領域の科目群を軸としつつも、他専攻の専門科目の履修を通じ、各自が興味と関心に合わせて自らの学際空間を設計して学習を進める。

資質・能力目標（２）：西洋史学の学術的な専門知識と、史料批判・読解などの歴史学の方法論を身につけたうえで、論理的な思考を行い、専門分野および社会における課題を導く力。

→歴史学の理論と方法論の基礎を学び、歴史学そのものについて考える「史学概論」ならびに特定の時代・地域を個別テーマにもとづき探求する「西洋史特殊」の履修を通じて、高度な専門的学識や技能の習得を目指す。また、「日本史概説」および「東洋史概説」の履修を通して、より広い文脈の中での歴史への理解を深める。

資質・能力目標（３）：自ら情報を収集する力、それを学問的に分析するために必要な外国語力と方法論を鍛え、自ら設定した課題に取り組み、効果的なプレゼンテーションを行う力。

→外国語科目の履修を通じて、専門的な研究文献を講読する力をつける。また、卒業論文指導の過程で、学問研究の方法を実践的に学び、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた学術的な展望を提示する力。

→各自の研究テーマを探求し、卒業論文指導の過程で行われるディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。卒業論文の執筆を通じて培った専門性や問題を解決する力を発揮し、論理的な思考と緻密な探究にもとづく自らの学術的な成果を表現する力を育成する。

〔民族学考古学専攻領域〕

1.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、民族学、考古学及び関連諸分野に関わる研究史、理論、分析方法を学び、具体的な研究に取り組むことにより、諸事象及び諸問題について歴史を軸とした幅広い視点から実証的に探求し、論理的に理解できる能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（史学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：民族学や考古学あるいはそれらの関連分野の研究において必要となる研究史と理論に関する基礎的知識。

資質・能力目標（２）：個別のフィールドにおいて具体的な研究を実施するために必要な、調査、分析、コミュニケーションの能力。

資質・能力目標（３）研究の成果を、研究発表として効果的にプレゼンテーションし、合わせて学術論文（卒業論文）として論理的にまとめる能力。

資質・能力目標（４）：上記（１）～（３）のために必要な語学能力。

資質・能力目標（５）：大学卒業後のより高度な専門研究あるいは実社会の生活において、能動的に問題を発見し分析・解決する実践的能力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. フィールドワークも含めて、その研究方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2.教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）民族学考古学専攻領域（学士：史学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- （１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、民族学、考古学、関連諸分野に関わる科目群を設置する。
- （２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、テキスト科目、卒業論文指導などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- （３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

民族学考古学専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：民族学、考古学、あるいは関連分野の研究において必要となる研究史と理論についての基礎的知識。

→民族学、考古学、関連分野の基礎的知識を習得するための概論科目「考古学」「民族学」「人類学」を設置する。また、考古学の具体的な研究成果とその方法を学び、併せて学際的視野の習得を目指す、より専門性の高い科目群（「オリエント考古学」「西洋史特殊Ⅰ」）を設置する。

資質・能力目標（２）：個別のフィールドにおいて具体的な研究を実施するために必要な、調査、分析、

コミュニケーションの能力。

→フィールドでの調査方法、一次資料の分析方法、調査に必要なコミュニケーション能力については、卒業論文指導において指導する。加えて、教員によって組織される国内外の野外調査等への参加の道も確保する。資質・能力目標（３）：研究の成果を、研究発表として効果的にプレゼンテーションし、合わせて学術論文として論理的にまとめる能力。

→卒業論文指導において、プレゼンテーションとディスカッションによる問題解決を通し、論理的思考力と構成力、プレゼンテーション能力を養成するとともに、研究成果を卒業論文としてまとめることを目指す。

資質・能力目標（４）：上記（１）～（３）のために必要な語学能力。

→卒業論文指導において、卒業論文のテーマに関わる文献の講読を行う。

資質・能力目標（５）：大学卒業後のより高度な専門研究あるいは実社会の生活において、能動的に問題を発見し分析・解決する実践的能力。

→専攻の専門教育のカリキュラム全体での学び、及び卒業論文の執筆を通してこの資質・能力を高めることを目指している。

【第３類】

文学部（通信教育課程）第３類では文学を主とした専攻領域を扱っており、所定の条件を満たした際には、「学士（文学）」の学位が授与されます。学生は、自らが希望する卒業論文のテーマを検討し、そのテーマに関係する専攻領域で求められることを踏まえ学修を進めるとともに、指導教員の指導のもとでテーマを掘り下げて卒業論文の執筆を進めていきます。

第３類で授与される学位の専攻分野と関係する専攻領域は次の通りです。

学士（文学）：国文学専攻領域、中国文学専攻領域、英米文学専攻領域、独文学専攻領域、仏文学専攻領域

所定の必要単位を修得したうえで、それぞれの専攻領域で求められること、卒業論文執筆の重点項目などを含んだ方針は次の通りです。

学士（文学）

〔国文学専攻領域〕

1.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、国文学・日本語学にかかわる諸領域を対象として、広い視野から着実に文学・言語を理解し、得られた深い知見に基づき、文化の構築や社会の発展に資するための表現力及び論理的構成力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（文学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：国文学および日本語学、漢文学を中心に、学芸、習俗など広く日本文化の歴史と現在について専門知識を有し、厳密な研究方法を身につける。

資質・能力目標（２）：自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、独力でデータ・資料を収集し、オリジナルな分析・考察を行って課題を解決し、その成果を論理的・説得的に構成して自分のことばで発表できる。

資質・能力目標（３）：国文学・日本語学・日本文化を専門的に学び深く理解することを通して、それらと対照して異文化についても広く深く理解する視野をもつとともに、固定観念や偏見にとらわれず国文学・日本語・日本文化をも相対化してとらえることができる。

資質・能力目標（４）：大学で獲た知識や研究技法を基礎にして、生涯、学習を継続する姿勢をもつとともに、それらの知識・技法を、社会に出てから直面する多様な問題・課題を解決するために応用できる能力をもつ。

資質・能力目標（５）：学修の最終成果である卒業論文を独力で執筆できる。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文は次の審査項目を満たすことが求められる。

- １．テーマ・問題意識が明確でかつ独自性がある。
- ２．先行研究を踏まえている。
- ３．データ・資料を適切に読解・分析している。
- ４．内容が論理的で一貫している。
- ５．形式が学術論文として適切である。

2.教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）国文学専攻領域（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、人文社会科学に加え、自然科学や学際的な分野も包含する多様な科目群を設置する。

（２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、テキスト科目やスクーリングなどにおいて、学生が主体となる能動的な授業を実施する。

（３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：国文学および日本語学、漢文学を中心に、学芸、習俗など広く日本文化の歴史と現在について専門知識を有し、厳密な研究方法を身につける。

→総合教育科目、必修外国語科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能、着実な言語運用能力を身につけ、専門教育科目において国文学・日本語学などについて、深い学びを可能にするための総合的学識・技術の獲得を目指す。

資質・能力目標（２）：自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、独力でデータ・資料を収集し、オリジナルな分析・考察を行って課題を解決し、その成果を論理的・説得的に構成して自分のことばで発表できる。

→総合教育科目、必修外国語科目での学修成果をふまえ、専門教育科目において、国文学・日本語学に関する基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標（３）：国文学・日本語学・日本文化を専門的に学び深く理解することを通して、それらと対照して異文化についても広く深く理解する視野をもつとともに、固定観念や偏見にとらわれず国文学・日本語・日本文化をも相対化してとらえることができる。

→専門教育科目において、国文学・日本語学に関わる幅広い知識を身につけるとともに、専攻外の専門教育科目等の履修も可能とし、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標（４）：大学で獲た知識や研究技法を基礎にして、生涯、学習を継続する姿勢をもつとともに、それらの知識・技法を、社会に出てから直面する多様な問題・課題を解決するために応用できる能力をもつ。

→専門教育科目において、国文学・日本語学領域における最新の研究成果を知り、その知見・技術と現代社会との結びつきについて理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標（５）：学修の最終成果である卒業論文を独力で執筆できる。

→卒業論文の指導を中心に、言葉や文学についての議論や分析を基礎として各自の研究テーマを探究し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

〔中国文学専攻領域〕

1.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、中国文化圏における「文（ことば）」にかかわる広大な領域を対象として、創立者福澤諭吉の「実学」に基づき、実証的に真理を解明し問題を解決してゆく科学的な姿勢と知識および能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（文学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：中国文化圏を中心とする多様な文化や地域につながる幅広い教養を持ち、それを日本語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

資質・能力目標（２）：中国文学を中心とする人文社会科学の学術的な知識と、情報収集能力を身につけたうえで、論理的な思考を行い、効果的なプレゼンテーションを行う力。

資質・能力目標（３）：社会の中で中国文学を中心とした人文社会科学を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で行う力。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、中国文学を中心とする専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文(卒業試験)は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）中国文学専攻領域（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

- （１）基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指し、多様な科目群を設置する。
- （２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- （３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：中国語圏を主とする多様な文化や地域につながる幅広い教養を持ち、それを日本語で適切に説明し、コミュニケーションを行う力。

→総合教育科目、専門教育科目において、学士課程での学びの軸となる幅広い見識、学習のための基礎的技能を身につけるとともに、さらなる応用力を養う。

資質・能力目標（２）：人文社会科学の学術的な知識と、情報収集能力を身につけたうえで、論理的に思考し、効果的なプレゼンテーションを行う力。

→専門教育科目において、主に中国語文化圏にかかわる文学等を中心とした基礎的な知識を修得し、次第に高度な専門的学識や技能の習得を目指す。

資質・能力目標（３）：社会の中で人文社会科学を学ぶことの意義を自覚し、自ら設定した目標の達成や社会問題の解決を、ふさわしい方法で行う力。

→様々な科目を組み合わせることで履修することにより、研究・学習課題を自ら定め、達成する能力を育成する。また、他専攻領域の専門教育科目等の履修によって、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

資質・能力目標（４）：学修の最終成果である卒業論文を執筆し、専門的な領域において、先人の成果をふまえた新たな展望を提示する力。

→主として卒業論文の指導において、各自の研究テーマを探究し、ディスカッションやフィードバックを通じて自己の研究過程を客観的に評価し、より高次の問題解決に挑む力を養う。

〔英米文学専攻領域〕

1.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、英語学、英文学、米文学の分野の学修と研究を通じて、英語、英米文学の専門的な知識と研究方法を身につけ、専門分野の教養を活かして社会に貢献する人材を育成することを目的とする。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：日本語ならびに外国語（英語）を使用して正確な読解と適切な調査にもとづいた論理的な思考を展開し、他者と生産的な議論を行う力。

資質・能力目標（２）：外国語（英語）を使用して生産的な発信を行う力。

資質・能力目標（３）：英語という言語それ自体に対する関心・理解を深め、過去から現在に至る英語を使用した文化の特徴・歴史に関する知識を応用する力。

資質・能力目標（４）：英語を通じて異文化の他者と交流を持ち、共通の問題を解決していくための議論や実践する基礎的な力。

〈卒業論文における審査項目〉

卒業論文(卒業試験)は次の審査項目を満たすものとする。

1.テーマ・問題意識が明確である。

2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）英米文学専攻領域（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力目標を養成するために、総合教育科目、必修外国語科目および専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）英語学、言語学、イギリス・アメリカ文学の基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指す科目群を設置し、また他専攻領域の専門教育科目等の履修によって、広く人文社会科学領域に関する理解を深める機会を設ける。

他の類で扱う専門教育科目を横断的に学べる科目群を設置する。

（２）自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、テキスト科目、スクーリング科目、講義科目、研究の必要に応じた実験、フィールドワークなどにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

（３）知的探究への動機づけと実践力を育成するため、専門的な知識や技能を習得する科目群と学際的な科目群を共に他の類で扱う専門教育科目群を履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）：日本語ならびに外国語（英語）を使用して正確な読解と適切な調査にもとづいた論理的な思考を展開し、他者と生産的な議論を行う力。

→テキスト科目や講義科目のレポート作成において、一次資料の深い読解に根差した論拠を挙げて意見を主張し、リサーチにより収集した適切な二次資料を用いながら自分の見解を他の専攻研究と比較検証しながら論じることができるよう指導する。

資質・能力目標（２）：外国語（英語）を使用して生産的な発信を行う力。

→テキスト科目でのレポート作成や卒業論文作成において、原書の正確な読解と深い考察を行うよう指導する。

資質・能力目標（３）：英語という言葉それ自体に対する関心・理解を深め、過去から現在に至る英語

を使用した文化の特徴・歴史に関する知識を応用する力。

→英語学、言語学、英文学、米文学の分野にわたるテキスト科目や講義科目を履修することを勧める。

資質・能力目標（４）：英語を通じて異文化の他者と交流を持ち、共通の問題を解決していくための議論や実践する基礎的な力。

→卒業論文の作成を通じて日本国内および海外での先行研究を踏まえた議論を行うよう指導する。

〔独文学専攻領域〕

1.卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提とし、ドイツ語・ドイツ語文学を中心とする広大で多彩なドイツ語圏諸文化現象の探究を通じて、流動化する国際社会においてよりよく生きるための教養と学識、倫理的判断力と実践的能力を培うことを目標とする。加えて、教育課程において定める要件を満たした学生に対し、学士（文学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：関連文献を通じて、ドイツ語学・文学研究ならびにドイツ語圏の文化現象全般に関する総合的知識を獲得し、この知識を基盤に当該領域に関する問題を発見・設定する力。

資質・能力目標（２）：ドイツ語文化圏の歴史的、文化的特性を理解することによって、日本語および日本文化を相対化する視点を獲得し、自文化に関する反省的思考を深め、これを通じて得られた異文化リテラシーを生かし、社会人として国際社会に貢献する力。

資質・能力目標（３）：明確な問題意識を持ち、自ら発見・設定した問題の解決に至る思考の過程を、先行研究を踏まえて論理的に記述した卒業論文を作成する力。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文（卒業試験）は、次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2.教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部（通信教育課程）独文学専攻 領域（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成し、かつ学生個々の関心領域に応じた学修が可能となるよう多様な専門教育科目を設置し、これらから構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の通り教育を実施する。

(1) ドイツ語学、ドイツ文学、ドイツ文化学の領域に関して専門的知識を深めることができるようカリキュラム設計を行う。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻領域の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1): 関連文献を通じて、ドイツ語学・文学研究ならびにドイツ語圏の文化現象全般に関する総合的知識を獲得し、この知識を基盤に当該領域に関する問題を発見・設定する力。

→文学および文学史についての概括的知識(「ドイツ文学史」、「ドイツ文学研究」)やドイツ言語学(「ドイツ語学文学」)、ドイツ小説史(「近代ドイツ小説」)、ドイツ演劇史(「近代ドイツ演劇」)等に関する科目を設置し、学生が個々の関心ないし問題意識に応じて学修を設計できるよう配慮する。

資質・能力目標(2): ドイツ語文化圏の歴史的、文化的特性を理解することによって、日本語および日本文化を相対化する視点を獲得し、自文化に関する反省的思考を深め、これを通じて得られた異文化リテラシーを生かし、社会人として国際社会に貢献する力。

→ドイツ言語学分野の科目(「ドイツ語学文学」)は言語コミュニケーションの媒体としてのドイツ語を多様な視点から客体化しつつ探究することによって、同時に日本語および日本文化を相対化する視座を与える。

資質・能力目標(3): 明確な問題意識を持ち、自ら発見・設定した問題の解決に至る思考の過程を、先行研究を踏まえて論理的に記述した卒業論文を作成する力。

→学生はドイツ語圏文学・語学・文化についての幅広い基礎知識およびドイツ語圏研究の作法を基盤に、上記の専門教育科目群からそれぞれの関心に応じた領域の科目を主体的に選び、重点的かつ批判的に学修する。そして最終的には自ら問題を設定してこれを深く追究し、その成果を卒業論文にまとめあげる。

[仏文学専攻領域]

1.卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を前提として、フランスとフランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史を中心とする広大な領域を対象とし、多様化する国際社会で求められる教養の獲得を目標とする。加えて、教育課程において定める要件を満たした学生に対し、学士(文学)の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標（１）：仏文学専攻領域での学びを通して、日本の文化を相対的視点から捉え直すとともに、フランス語圏の文化のみならず、広く異文化に対して関心と理解を示す社会人となり、多様化する国際社会に貢献する力。

資質・能力目標（２）：日本語およびフランス語の文献の読解、分析を通して、フランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史に関する総合的な知識を習得し、それをもとに日本語あるいはフランス語で自分の考えを論理的かつ効率的に説明する力。

資質・能力目標（３）：自ら関心を持つテーマを設定し、関連する先行研究を批判的に検証しながら、独自の視点で考察を掘り下げた卒業論文を執筆する力。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

2.教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

〈教育課程の編成〉

通信教育課程文学部第 3 類仏文学専攻領域（学士：文学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育方法を組み合わせて教育を実施する。

（１）各科目で定める目的に応じて、フランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史にかかわる広範な知識を伝え、あるいは、時代的にも主題的にも多岐にわたる、専門的な知見、思考法、発表技術を教授する。

（２）各科目で定める方針に応じて、特定の主題について論じながら、学際的な、他に開かれた視点も提供して知的探求心を刺激し、あるいは、学生個々に積極的な参加を促して、それぞれの段階を踏んで分析力や文章力を研磨するよう指導する。

（３）卒業論文作成を、学生が各科目で学修したことを応用して、独自の課題を発見し、それについて説得力のある論考をまとめる、集大成として位置づける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標（１）仏文学専攻領域での学びを通して、日本の文化を相対的視点から捉え直すとともに、フランス語圏の文化のみならず、広く異文化に対して関心と理解を示す社会人となり、多様化する国際社会に貢献する力。

→フランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史への造詣を深めながら、それに隣接する他の文化圏や、翻って日本文化へも目を開かせ、世界の複雑な成り立ちを啓発する。

資質・能力目標（２）日本語およびフランス語の文献の読解・分析を通して、フランス語圏の言語、文学、思想、文化、歴史に関する総合的な知識を習得し、それをもとに日本語あるいはフランス語で自分の考えを論理的かつ効率的に説明する力。

→多様な形式と内容の文献を対象として、精緻に読み込み、そこから独自の主張を導き出し、その主張を口頭あるいは文章で説得力をもって訴える、という一連の作業を課して、個々の自発的な取り組みを督励する。

資質・能力目標（３）自ら関心を持つテーマを設定し、関連する先行研究を批判的に検証しながら、独自の視点で考察を掘り下げた卒業論文を執筆する力。

→指導教員が学生個々の特性、長所、短所に適切に対応し、それとともに、学生には自身の研究を自ら適切に評価、批判することを促して、独自性と普遍性を備えた卒業論文の完成へと導く。

文学部（通信教育課程）のアドミッション・ポリシー

文学部(通信教育課程)では次のような資質・能力を有する学生を求めています。

- ・慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心
- ・先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力(日本語、および英語・フランス語・ドイツ語・中国語)
- ・与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力
- ・現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識(日本史または世界史)

これらは、文学部（通信教育課程）が設置しているすべての類（哲学を主とする第 1 類、史学を主とする第 2 類、文学を主とする第 3 類）に共通しており、入学後、それぞれの類における独自のカリキュラムに従って、専門的な知識や能力を身につけていきます。したがって、文学部（通信教育課程）に入学する者は、これらの類が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有することもまた必要です。

以上の方針に基づき、入学選考を実施します。入学選考は書類選考によりますが、今後の学習勉強計画・研究計画について、明確なプランを持っていることが求められます。入学後、円滑に勉強を進めて

いくための、基本的な学力、とくにアカデミック・ライティングのために必要な日本語能力を求めます。